

センター

令和5年度

事業報告書

（和歌山県国際交流センター管理運営事業）

公益財団法人和歌山県国際交流協会

令和5年度の取組概要

和歌山県国際交流センターは、社会の国際化に即した地域の発展を促進し、県民が国際交流及び国際協力に関する活動を行う拠点とするために平成10年12月に設置された。

平成18年からは、「指定管理者制度」により、当センターの効率的・効率的な管理運営を行っており、令和5年度は第V期指定管理期間の2年度目となった。

今年度5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、最低限必要な感染対策を継続しつつ各事業内で制限を設けていた対面型の交流イベント参加者数を緩和した。50名規模の対面型交流イベントの実施と国際交流団体による施設利用数の増加等が影響し、利用者数が増加した結果となった。今年度も引き続き、県民の国際化に関する関心や、在住外国人支援のニーズなどがますます多様化する時代の変化に迅速に対応し、地域住民や外国人住民により親しまれる施設として活用してもらうため、前年度の利用者アンケート調査結果での課題等も反映しつつ下記のとおり各種事業を実施した。

a. センターの維持管理に関する業務（P.3～）

令和5年度の当センターの年間利用者数は、18,625名と令和4年度に比べ、約19%の増加となった。手指・備品の消毒や高機能空気清浄機の設置を継続しながら、利用団体や来館者には清潔で安心・安全な施設を利用してもらうことができた。

b. 国際交流等に関する活動を実施・支援する業務（P.5～）

国際交流センターボランティア登録者は161名であり、ボランティアとしての意識をさらに高め、活動をより実りのあるものにしてもらうため、分野別の研修会を行った。従来から行っているグローバルセミナー、インターナショナル・カフェ、外国語講座などは、開催方法を工夫しながら実施した。

c. 国際交流等に関する情報の収集・発信に関する業務（P.13～）

情報収集提供事業として、他の図書館との差別化を図るため多文化理解関係及び外国人が母語で読むことのできる本等の蔵書をさらに充実させた。ホームページとSNSを活用した情報発信を定期的に行った。

d. 在住外国人等に対する支援業務（P.15～）

相談窓口の運営では、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語の5カ国語で様々な相談に対応し、日本語学習支援なども行った。

e. 在住外国人等に対する防災対策及び危機管理支援業務（P.20～）

近畿地域国際化協会連絡協議会の研究会や総会、共催研修にも積極的に参加した。災害時多言語支援センターの運営訓練を引き続き行った。また、外国人のための防災啓発講座を実施した。

f. 海外移住者及び海外県人会に対する支援及び交流事業の実施業務（P.24～）

本年度は、メキシコ和歌山県人会から2名、ブラジル和歌山県人会から1名、パラグアイ和歌山県人会から1名の受入を行い、グローバルセミナーなどを通じて県民との相互理解と親睦を深めた。ブラジル和歌山県人会とは定期的にオンラインでのミーティングを行うことで交流を深めた。

g. その他施設を利用した指定管理者自主業務（P.25～）

デジタル情報の配信、わかやまJICAボランティア応援団業務、DX推進のための取組等を行った。

ア 施設及び指定管理者の状況 施設・設備の保守点検や修繕の状況、管理運営体制等

(1) 施設全体の新型コロナ感染予防対策

利用者が安心して利用できるよう、感染対策の実施と呼びかけを徹底した。

施設の利用団体とはコロナの感染状況が変化する度にコミュニケーションを取り、状況に応じた利用方法等と呼びかけた。

- ・マスクの適切な着脱・入館時の手指の消毒・部屋の換気、高機能空気清浄機の設置
- イベント開催の際についても上記の内容を徹底した。

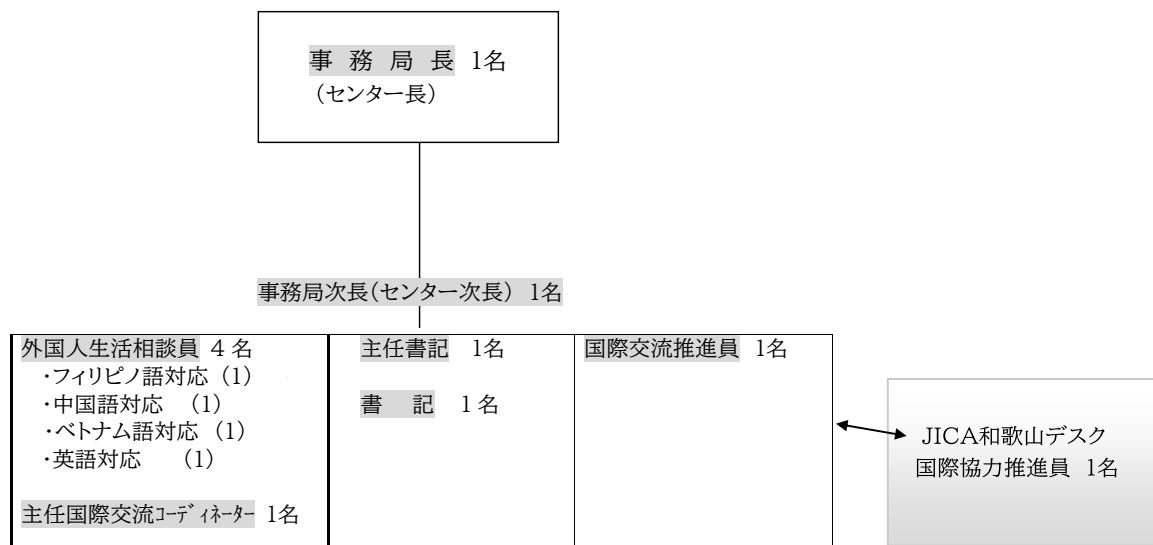
(2) 清掃

国際交流センターを快適に利用してもらうために、毎日の当番制による職員のチェックと簡単な掃除、そして毎週月曜日、木曜日にスタッフ全員で清掃活動を行った。年に2回、センター交流ラウンジ・サークル室・小会議室・倉庫・事務所の大幅掃除や部分的な床剥離清掃を行い、清潔な環境維持に努めた。

(3) 危機管理体制

- ・施設内での事故等に備え、施設所有管理者賠償責任保険に加入した。
- ・緊急時連絡体制表を更新し、職員全員が内容を把握した。
- ・新型コロナウイルス感染予防対応マニュアルを状況に応じて通年で見直し、内容を更新した。
- ・甲種防火管理者講習を受講した職員が、危機管理体制を強化させた。
- ・職員がビッグ愛8階消防避難訓練及び救命講習会に参加し、緊急時の危機管理能力を向上させた。
- ・災害時の多言語支援センター設置運営訓練に職員全員が参加し、危機管理に関する意識共有を行った。
- ・交流ラウンジ内に設置した防災啓発コーナーでは、防災グッズの展示を兼ねて災害時多言語支援センター設置運営に必要な備品を備えた。保存食は賞味期限などを考え、新たに買い足す「ローリングストック法」により適正量を備え置いた。
- ・個人情報、「公益財団法人和歌山県国際交流協会 情報セキュリティ対策要綱」に沿って適切に管理した。

(4) 管理運営体制



イ 業務及び利用の状況 指定管理業務・自主事業の実施状況、施設の利用状況等

指定管理業務実施状況

a. センターの維持管理に関する業務

○ センター交流促進事業

和歌山県国際交流センターを様々な目的で訪れる利用者の方々が、コロナ渦の中でも安心して利用できる清潔で快適な施設づくりと、スタッフ・来館者同士のスムーズなコミュニケーションが図れるような環境づくりに努めた。

(P.2再掲 (1)～(3))

(1) 施設全体の新型コロナ感染予防対策

- ・利用者が安心して利用できるよう、感染対策の実施と呼びかけを徹底した。
- ・施設の利用団体とはコロナの感染状況が変化する度にコミュニケーションを取り、状況に応じた利用方法等を呼びかけた。
- ・マスクの適切な着脱・入館時の手指の消毒・部屋の換気、高機能空気清浄機の設置
イベント開催の際についても上記の内容を徹底した。

(2) 清掃

国際交流センターを快適に利用してもらうために、毎日の当番制による職員のチェックと簡単な掃除、そして毎週月曜日、木曜日にスタッフ全員で清掃活動を行った。年に2回、センター交流ラウンジ・サークル室・小会議室・倉庫・事務所の掃除や部分的な床剥離清掃を行い、清潔な環境維持に努めた。

(3) 危機管理体制

- ・ビッグ愛8階消防・避難訓練の実施
日 時：令和5年12月14日（木）15：00～16：00
参加者：当センター全職員、和歌山県消費生活センター職員 合計約20名
内 容：ビッグ愛8階からの避難ルートの確認。消火器や消火栓を使用した初期消火の練習。
防火ドアの使用方法について学習。（ビッグ愛管理事務所職員、ビッグ愛防災センター職員による）
- ・普通救命講習会の受講
日 時：令和6年3月14日（木）13：30～16：30
参加者：職員4名
内 容：普通救命講習I（AED使用を含む）（和歌山市消防局による）
- ・施設内での事故等に備え、施設所有管理者賠償責任保険へ加入した。
- ・緊急時連絡体制表を更新し、職員全員が内容を把握した。
- ・新型コロナウイルス感染予防対応マニュアルを状況に応じて通年で見直し、内容を更新した。
- ・甲種防火管理者を常置させ、ビッグ愛8階消防計画に沿って危機管理を強化した。
- ・災害時の多言語支援センター設置運営訓練に職員全員が参加し、災害時の危機管理に関する意識共有を行った。
- ・個人情報、「公益財団法人和歌山県国際交流協会 情報セキュリティ対策要綱」に沿って適切に管理した。

（4）施設内の工夫

施設内の表示は原則全てやさしい日本語、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語で作成し、外国人利用者が安心して利用できる工夫をした。また、レイアウトについても利用促進につながる工夫を以下のとおり各セクションにて行った。

—交流ラウンジ

- ・交流ラウンジでは保有する雑貨や備品を国別に整理し保管した。これらの雑貨や民族衣装は定期的に館内装飾のため利用した。
 - ・コロナ渦の中でも、清潔で安心して利用していただける環境づくりに努めた。給茶器を廃止し、ウォーターサーバーを設置して水やお湯を注ぐだけのスティックタイプのお茶やコーヒーも無料で提供した。
- Wi-Fiを整備し、広く交流ラウンジを団体等に開放した。

—資料閲覧室

利用者が世代別や用途別に快適に利用できるよう、レイアウトを定期的に整理し変更した。

資料閲覧室利用に関するデータ等は、P.14「c. 国際交流等に関する情報の収集・発信に関する業務 ○資料閲覧室」に記載。

—防災啓発コーナー

交流ラウンジ内に新たに防災啓発コーナーを設置した。災害時に役立つ防災グッズの展示を兼ねて災害時多言語支援センター設置運営に必要な備品を備えた。また、当センターが発行する多言語防災ガイドをはじめ、災害時に役立つ資料・パンフレット・図書等を展示した。

—キッズコーナー

外国文化に関する絵本や玩具の設置、子供用民族衣装の試着、せかいのぬりえ体験等の内容を取り揃え、お子様連れの方々が利用しやすい環境づくりをした。玩具等は定期清掃での消毒により清潔に維持し、季節に応じた絵本の入れ替えやデコレーションを行い、親子で安心して楽しめるよう維持管理した。

—ボランティア・団体用サロン

和歌山県内の国際交流団体が定期的なミーティングに利用できるスペースを整備した（各団体が利用できるように12個のロッカーを設置し、現在すべてのロッカーが利用されている）。WiFiやコピー機などを整備し、当センターボランティアや団体の活動をサポートした。

—情報ボード

個人や団体が自己管理のもと、自らの情報を自由に提供できる場所として情報ボードを設置し、「国際交流イベント」、「語学学習のお知らせ」などの情報発信に活用してもらった。また、和歌山県外の外国人支援団体からの情報なども掲示し、在住外国人向けの生活に関する情報を適宜提供した。

b. 国際交流等に関する活動を実施・支援する業務

I センターの施設及び整備の提供

○施設の貸出と環境整備

民間国際交流団体やボランティアグループ等への施設の貸出を行った。また、Wi-Fi 環境やコピー機の保守管理等を適宜整備し、活動しやすい環境づくりに務めた。

○NPO 協働事業

国際交流や異文化・多文化理解を促進している非営利の団体と協働することで、県内の国際交流や異文化・多文化理解の更なる活性化を図り県民の多文化共生への意識を高めるために下記事業を実施した。

◇ 宮前国際音楽祭

県内の高校生が実行委員会を立ち上げ、地域住民の協力を得て歌と踊りを通じた多文化理解イベントを企画し、当センターも協働した。多様な民族音楽と民族舞踊の鑑賞及び体験、世界の布を使ったしおりづくりワークショップを実施した。

- (1) 共催団体 第2回宮前国際音楽祭実行委員会
- (2) 日 時 令和5年4月23日（日）13:00～15:00
- (3) 場 所 慶哉寺（和歌山市中島 229）
- (4) 講 師 北インドカタック古典舞踊 ナリニ トシュニワル
中国古典舞踊 李 薇
- (5) 対 象 者 会場近隣地域の住民を中心とした県民
- (6) 参 加 者 約100名
- (7) 内 容 （ステージプログラム）
13:00 中国舞踊 13:30 カタック古典舞踊 14:00 朝鮮学校民族器楽部
14:20 沖縄舞踊・民謡・エイサー
（ワークショップ同時開催）
13:00～15:00 ステージ出演者の国や地域に関連する布でオリジナル葉づくり

◇ 「本場ドイツのクリスマスと聖歌」

- (1) 共催団体 ドイツ語文化交流協会
- (2) 日 時 令和5年12月23日（土）16:00～17:30
- (3) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (4) 内 容 ドイツ人留学生が本場ドイツのクリスマスについてクイズを交えながら紹介した後、ミニコンサートを開催した。バリトン歌手とソプラノ歌手、クラリネット奏者によるクリスマスの音楽及びクラリネット独奏を披露した。
- (5) 参 加 者 49名

◇ せかいのぬりえ

コロナ禍でも実現可能な事業として令和3年度より開始した取り組み。引き続き7枚目となる当センターオリジナルぬりえ「せかいのぬりえ」を制作した。「わかやまのぬりえ」でぬりえ制作実績を持ち、県内で活躍する父親サークル「パパチカ」と協働制作をした。「せかいのぬりえ」はこれまでの発表してきたぬりえと併せ今後もセンター内のキッズコーナーに常置し、来館者に気軽に楽しんでいただくこととした。

(1) テーマ 「ナイジェリアのひとびと」

(2) 内 容 パパチカ及び当センター日本語クラスに通うナイジェリア出身の在住外国人と共に企画したこのぬりえは、「ナイジェリアを代表する3つの民族の衣食住文化」がテーマ。

(3) ぬりえを活用したイベント 「せかいのぬりえコンテスト」の実施

小学生までを対象とし、期間内で作品の応募を受け付けた。

募集期間：令和5年12月1日（木）から令和6年1月9日（火） 応募作品：14名（9作品）

(4) 子ども対象ナイジェリアのお話し会

「ナフィサさんにきいてみよう、ナイジェリアのこと」

講 師 Nafisa Khamis Umar (ナフィサ ハミス ウマル) さん

日 時 令和6年2月17日（土）13:00～14:00

内 容 ナイジェリアの国・食文化・お祭り・衣服・小学校等についての紹介
手づくりキャンディーの試食や歌の合唱

参加子ども数 12名



せかいのぬりえ ナイジェリアのひとびと

◇ いろいろな国を知ろう事業

世界にはいろいろな国があり、文化がある。

WIXAS パスポートを作って世界の国の中から2つの国または地域（中国、インドネシア、ベトナム、スリランカ、インド、ウズベキスタン、フランス、ブラジル）を訪問し、海外の生活文化を体験してもらいます。

(1) 日 時 令和5年12月9日（土）10:30～15:00

(10:30～12:00、13:30～15:00の二部制)

(2) 場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ、サークル室

(3) 内 容 WIXAS パスポートを作って、世界ツアーを実施。各グループ参加者3名が一組になり、8つの国・地域のうち2つの国・地域の衣食住文化を写真やワークショップを通して疑似体験した。また、それぞれの国の言語も教えてもらった。

(4) 講 師 和歌山大学留学生 7名

和歌山在住外国人 1名

(5) 対 象 者 未就学児から小学生（未就学児以下は保護者同伴）

(6) 参 加 者 16組32名

(7) 協 力 和歌山大学

◇ 第4回ゼロエンマーケット in 紀の川市への協力

(1) 協力団体 和歌山県青年海外協力協会 WOCA

(2) 日 時 令和5年10月22日（日） 10:30～15:00

(3) 場 所 紀の川市西貴志コミュニティセンター

(4) 内 容 在住外国人のための生活相談窓口・日本語教室情報のチラシ、多言語防災ガイドブックのご提供等

II 国際交流機会の提供

○国際交流センターボランティア登録制度

和歌山県の国際交流活動への関心が高く、ボランティア活動を積極的に行う意欲のある方を募集し、登録後は、活動をより実りのあるものにしてもらうため、分野別の研修会を行った。また、活動に対する思いや目標を高めてもらう機会とするため、全ボランティアを対象とする研修会を実施した。

◇ ボランティア登録者数 161名

内訳：（複数登録者あり）

通訳・翻訳 64名 日本語 40名 ホームステイ及びホームビジット 43名

文化紹介（日本文化・外国文化）65名 情報収集提供 18名

（昨年度実績 110名 通訳・翻訳 52名 日本語 32名 ホームステイ及びホームビジット 35名 文化紹介（日本文化・外国文化）30名 情報収集提供 12名）

◇ボランティア登録説明

登録や活動に関心のある方々に対し、担当者が個別対応にて登録制度を説明した。

○ボランティアの人材育成研修等

◇ ボランティア研修会

日頃、活躍していただいているボランティア活動において、ボランティアとしての生きがいについてあらためて問い直す機会とするため、わかやま NPO サポートセンター理事長の志場久起氏を講師として招き、国際交流ボランティア活動への価値と必要性について研修を行った。

- (1) 日 時 令和6年3月16日（土） 13:30～15:00
- (2) 実施方法 和歌山県国際交流センターサークル室および Zoom によるオンライン開催
- (3) 講 師 志場 久起
- (4) テー マ 「ボランティア活動の価値と必要性」
～あらためてボランティアとは何かを考える～
- (5) 対 象 者 和歌山県国際交流センターボランティア登録者、新規登録希望者
- (6) 参 加 者 21名（対面参加13名、オンライン参加9名）

◇「通訳ボランティア技術向上講座」事業

英語教育学、異文化理解、国際交流を専門分野とする講師を招き、通訳ボランティア活動に必要な通訳技術の向上を図るとともに、災害時における表現に関する学びを深めるなど参加者が通訳に臨む際のアドバイスをいただいた。研修会は英語で行われ、日頃の英語学習をより積極的に取り組むきっかけとなった。

- (1) 日 時 令和5年9月9日（土） 13:30～15:30
- (2) 会 場 和歌山県国際交流センター
- (3) 講 師 辻 伸幸（和歌山信愛大学教授・国際教育センター長）
- (4) 対 象 者 和歌山県国際交流センター通訳ボランティア登録者
- (5) 参 加 者 11名

◇ 日本語ボランティア研修会（P.18 d. 在住・滞在外国人支援業務 II コミュニケーション支援に詳細記載）

◇ 在住外国人と和歌山県国際交流ボランティアとの交流会「リユースマーケット」の開催

- (1) 日 時 令和5年10月29日（日）13:00～15:00
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ及びサークル室
- (3) 内 容 ボランティアへのアンケート調査から出た要望に沿って、コロナ禍ではできなかった地域在住の外国人の方々との交流と、在住外国人支援のためのボランティア活動機会としてリユースマーケットを実施した。ボランティアがリユースできる物品を持ち寄り、当日は店の店員役となり日本文化雑貨や生活雑貨などのマーケットを運営し、当センターにて日本語を学ぶ地域在住外国人等がお客役となり、やさしい日本語で交流しながらリユース物品を持ち帰った。
- (4) 参加者数 56名（国際交流センターボランティア21名・在住外国人35名）

Ⅲ 交流イベント

○ 「移民展・国際理解写真展」事業

◇ 「和歌山にルーツをもつ若者たちの映像と写真展」

★展示パネル

和歌山県人会から5地域の県人会の活動風景をはじめ日系人の若者から見た自国を紹介する写真を紹介。

- (1) 期 間 令和6年3月17日（日）～28日（木）午後3時まで
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) パネル枚数 24枚 （サイズA3）

★世界の県人との交流会

和歌山県子弟受け入れ事業で来県した子弟たちや県人会関係者とオンラインで繋ぎ、移住などに関心のある若者や子弟を受け入れたボランティアなどとの交流会を行った。

- (1) 日 時 令和6年3月17日（日）9:00～10:30
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ及び各参加者自宅
- (3) 実施方法 Zoomによるオンライン開催
- (4) 内 容 子弟受入事業で来県された和歌山にルーツをもつ若者から自国の日系人や移住諸国の現在を話していただき、彼らとご縁のあった和歌山県人の方たちとの交流を深めた。
- (5) 参加者 31名



写真展のようす

○ グローバルセミナー事業

在住外国人や外国での生活経験のある方、様々な文化やことばに精通した方々の協力を得て、県民の方々に出会いと交流の場を提供し、世界には多様なことばや文化があることを実感してもらった。さらに、在住外国人が同じ地域に住む住民であるという意識を持ってもらうことを目的に、本グローバルセミナーを開催した。

◇ 7月グローバルセミナー「メキシコからふるさと和歌山にルーツを訪ねて」

- (1) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (2) ゲ ス ト 秀明 ルイス エンリケ レオン清水（16歳）
エミリオ 正樹 ロメロ清水（22歳）
- (3) 内 容 メキシコ和歌山県人会の2名によるプレゼンテーションやメキシコの紹介、参加者との交流会を通して県人会やメキシコについて詳しく知っていただく機会を提供し交流を深めた。
- (4) 日 時 令和5年7月8日（日）13：30～15：00
- (5) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (6) 参 加 者 41名

◇ インターナショナル・カフェ「WIXAS コレクション」

県内在住の様々な国の方々と出会い、コミュニケーションできる場として「インターナショナル・カフェ」を開催した。

- (1) 日 時 令和5年11月12日（土）13：00～15：00
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) 内 容 様々な国の出身者によるランウェイウォーク、参加者全員での交流会、旗揚げゲーム、タヒチアンダンスグループ「マーラマラマ テ ライ」によるタヒチアンダンスショー、参加者全員でのタヒチアンダンス体験を通して、参加者同士がより交流を深めました。本年度は、参加者に1人1点お菓子を持参していただき、ポトラックパーティーによる交流を4年ぶりに再開。ただし、個包装のお菓子に限定した。
- (4) 参 加 者 計90名
・一般の参加者 41名
・和歌山にほんごの会 NAGOMI 42名（内日本語ボランティア 8名）
・和歌山県国際交流センターボランティア 7名
- (5) 協 力 和歌山にほんごの会 NAGOMI

◇ 海外オンライン交流プログラム・人権セミナー「世界の紛争と国際平和維持活動とは？」

- (1) 日 時 令和5年11月18日（土）15：00～17：00
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) 講 師 塩見 善之（国際連合ジュネーブ事務局・国連平和維持活動 PKO 局地雷対策サービス部、人道問題調整部アソシエートプログラムオフィサー）
- (4) 参 加 者 9名
- (5) 内 容 講師にはスイス・ジュネーブから Zoom で繋ぎ講義いただいた。国際連合の役割や活動について、また赴任地での経験を通して世界の現状を伝えていただき、参加者との質疑応答などを通して世界の人権問題について考える機会となった。

◇ 12月グローバルセミナー「～国際協力の日フェスタ～」

- (1) 日 時 令和5年12月16日（土）10:00～16:00
- (2) 場 所 国際交流センター交流ラウンジ、サークル室
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛801, 802号室
- (3) 内 容 和歌山県内等の国際協力団体が一堂にあつまりフェスタを開催し、県民の方に地域でできる身近な国際協力活動を紹介した。
- (4) 出展団体 10団体（タイ国政府観光庁、JICA 関西、和歌山青年海外協力協会
特定非営利活動法人 Happiness Kids Labo（旧 AMAYAKA（W））
わっと！和歌山 ASEAN 情報局、在日本大韓国民団和歌山県地方本部
和歌山県中南米交流協会、Wakayama ASEAN Project (WAP)
一般社団法人 Bokk Jambaar（ボック ジャンバール）
わかやま J I C A ボランティア応援団
- (5) 参加者 130名



国際交流フェスタ会場の様子

◇ 1月グローバルセミナー「ブラジル・パラグアイからふるさと和歌山にルーツを訪ねて」

- (1) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (2) ゲ ス ト パラグアイ和歌山県人会 大石 奈美（20歳）
ブラジル和歌山県人会 ファブリシオ ヒトシ マツナガ（22歳）
- (3) 内 容 ブラジル和歌山県人会より1名、パラグアイ和歌山県人会より1名の若者によるプレゼンテーションや両国の紹介、参加者との交流会を通して県人会や両国について詳しく知っていただく機会を提供し、交流を深めた。
- (4) 日 時 令和6年1月27日（土）13:30～15:00
- (5) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (6) 参加者 33名

◇ インターナショナル・カフェ「おりがみで交流しましょ」

県内在住の様々な国の方々と出会い、コミュニケーションできる場として「インターナショナル・カフェ」を開催した。

- (1) 日 時 令和6年2月25日（日）13:30～15:30
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) 内 容 ゲストにおりがみアーティスト・オリガミホさんを迎え、折り紙でおひな様を作り、きものコーディネーター西島レイ子さんからひな祭りの話を紹介していただき、参加者各自で持参した個包装のお菓子を囲み、参加者全員で交流する機会となった。
- (4) 参加者 25名（外国人4名含む）
和歌山県国際交流センターボランティア5名

◇「Online Exchange Program with Nanka Wakayama Kenjinkai」～Welcoming The Museum of Modern Art, Wakayama～

（南加和歌山県人会とのオンラインプログラム）

- （1）日 時 令和6年3月10日（土） 10:30～12:00（日本時間）
- （2）開催方法 Zoomによるオンライン開催
- （3）スピーカー 和歌山県立近代美術館 学芸員 青木 加苗
- （4）参加者 合計34名（南加和歌山県人会 13名、和歌山県民 21名（うち通訳ボランティア3名））
- （5）内 容 美術の観点から移民の歴史に関するプレゼンテーションを聞いたあと、少人数グループに分かれ英語又は日本語で交流をおこなった。

○ オンライン世界旅行

◇海外オンライン交流プログラム・人権セミナー「世界の紛争と国際平和維持活動とは？」に再掲。

講師の塩見善之氏にはスイス・ジュネーブからZoomで繋ぎ、講義を実施していただいた。国際連合の役割や活動について、また赴任地での経験を通して世界の現状を伝えていただき、参加者との質疑応答などを通して世界の人権問題について考える機会となった。（※詳細は、P9参照）

○ 学校連携事業

◇ 和歌山大学での講演の実施 「グローバル化社会論」第4回「公的機関の取り組み」

- （1）日 時 令和5年10月30日（月） 13:10～ 14:40
- （2）場 所 和歌山大学 E1-103（東1号館）
- （3）講 師 （公財）和歌山県国際交流協会 事務局長 北山 徹
主任国際交流コーディネーター 奥直子
- （4）参加者 学部（教育、システム工学、経済、観光1～4年生）及び留学生 139名
- （5）内 容 「国際交流センターをどう活用していくか」

◇ 和歌山信愛大学辻ゼミとの連携活動の実施

- （1）日 時 令和5年4月～12月
- （2）場 所 和歌山県国際交流センター、和歌山信愛大学
- （3）講 師 （公財）和歌山県国際交流協会 事務局次長 亀井勝博
- （4）参加者 信愛大学の学生2名
- （5）内 容 同学生の卒論指導ほか

◇ 信愛高等学校探究活動への協力

- （1）日 時 令和5年12月9日（土） 12:30～ 13:00
- （2）場 所 小会議室
- （3）参加者 高校2年生と担当教諭
- （4）内 容 地域や社会が抱える課題に対して地域の大人と協働しながら、最善の解を見つけようとする活動に協力 テーマ「外国人児童への日本語教育の充実」について、センター日本語ボランティア八巻由実子氏を交え情報交換を行った。

○センター共催事業

◇ 「英会話カフェ」

英会話力の向上や異文化理解の機会を求める方の要望に応えるため、気軽に英会話を楽しむ機会を提供し、参加者が交流を通して自発的な語学学習活動や国際交流活動に取り組んでもらうことを目標に、国際交流センターボランティアと共催で開催した。

- (1) 日 時 第1ターム 令和5年5月9日～8月1日 10回
 第2ターム 令和5年9月19日～12月5日 11回
 第3ターム 令和6年1月16日～3月19日 10回
 13:00～14:10 全31回 全日程火曜日の実施
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ、サークル室
- (3) 内 容 2名の英会話講師による初級英会話クラスを実施した。参加者に講座内だけではなく、自宅での学習にも積極的に取り組んでもらえるよう内容を考え、受講者の実力向上を図った。スモールトーク会では、講師以外の英語話者を招いて、受講者に英語で会話を楽しむ機会を提供した。運営では各クラスにボランティアスタッフを決め、参加者自らによるクラス運営への積極的な参加を実現した。
- (4) 講 師 佐藤 真理、ゲーリー
- (5) 受 講 者 第1ターム23名、第2ターム 23名、第3ターム 22名
- (6) 企 画 者 外国文化紹介ボランティア 佐藤 真理

◇ やさしいドイツ語文化理解講座

県内に在住または勤務する方を対象に、ドイツの言葉や文化を理解してもらうために、国際交流センターボランティアと共催で開催した。

- (1) 日 時 令和5年5月6日（土）～令和6年3月2日（土）
 16:50～18:20 全31回
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室
- (3) 内 容 アットホームな雰囲気の中、教科書やプリントに基づいた平易で使用頻度が高い日常生活に関わる表現を学びながら、語学学習にとどまらず食文化や芸術、社会について、ドイツ語圏文化と日本文化をテーマに取り上げ、異文化理解をすすめた。
- (4) 対 象 者 ドイツ語やドイツ文化に興味のある県民
- (5) 講 師 田島 昭洋（大阪公立大学ドイツ語講師）、ドイツ語が母語の話者
- (6) 受 講 者 13名
- (7) 企 画 者 外国文化紹介ボランティア 田島 昭洋

◇ 日本語クラス

県内に在住する外国の方を対象に、日本語や日本文化を学んでもらうために、国際交流センターボランティアと共催等で日本語クラスを実施した。詳細はP.17コミュニケーション支援事業欄参照

c. 国際交流等に関する情報の収集・発信に関する業務

○ 資料閲覧室

資料閲覧室においては、外国人向けの図書を多数所蔵し、当センター独自の強みとして、「母語で日本語を学べる教材・母語で読むことができる小説」、「世界各国の多様な文化を描いた絵本」の充実等を強化し、他の図書館との差別化を図った。また、多文化共生や国際理解等に関係する多彩な図書を取り揃え、分類ごとにわかりやすく配置した。定期的に内容を入れ替えたメインの飾り棚は、来館者がすぐに手にとってもらいやすい場所に配置した。さらに情報の古くなった図書類の選定を数回に渡って行い、蔵書の整理を行った。

◇ 蔵書数 8,062冊（昨年度実績 7,959冊）

(1) 蔵書構成：日本語・外国語図書（外国語小説、日本の小説や漫画の外国語版、日本語学習、外国語学習参考書、和歌山県の紹介、外国文化や海外観光地の紹介、外国語辞書など）

(2) 整備及び管理方法：日本十進法等により分類

◇ 県民及び在住外国人等からの寄贈

県民や在住外国人から図書の寄贈を受け、リサイクル図書として活用した。

◇ 図書貸出サービス登録者数 978名（昨年度実績 960名）

- ・貸出条件対象者 小学生以上であって県内在住の方、または県内に通勤、通学している方
- ・貸出期間 3週間
- ・貸出冊数 10冊まで
- ・貸出利用者 のべ151件（昨年度実績のべ224件）
- ・総貸出冊数 427冊（昨年度実績 592冊）

◇ 除籍図書の寄贈

和歌山県国際交流センター資料閲覧室の運営要項に沿って除籍した本を一定期間センター利用者に呼びかけ設置した。また、その後残った本86冊については、和歌山県 NPO サポートセンターを通じて県内の団体等にお譲りした。（和歌山県内のこども食堂等）

◇ 情報収集ボランティアの活動促進

情報ボランティアにより、資料閲覧室のレイアウトの変更や本整理作業を行った。

- ・除籍図書の整理
- ・多言語絵本を言語別に整理。専用の場所を作り、わかりやすく再配置

◇ 貸出数増加のための取組み

- ・季節やイベントに応じて特設コーナーの設置や、飾り棚を定期的に変化させ更なる利用促進につなげた。
- ・県内の高校及び大学にて図書館司書を務めるメンバーが10代向けにお薦めの本を情報掲載するフリーペーパーを発行する団体「つかさ食堂」と協働し、当センターに蔵書する本を毎月1冊取り上げてインスタグラム等のSNSでコメントつきで紹介するとともに館内にもわかりやすく専用コーナーを設置した。

○ ホームページ及び SNS 等

センターホームページでは、外国人の生活関連情報など多くの情報を発信した。また引き続きフェイスブックやインスタグラム等の SNS を活用し、イベント等のお知らせや実施後の写真等を掲載した。

◇ センターホームページ等

ホームページについては、イベント情報やイベント報告・お知らせなど情報発信は迅速に行い、更新頻度を多くした。言語は（日本語・英語・中国語・フィリピン語、ベトナム語）の5言語に対応しており、日本語はすべてやさしい日本語で掲載（※一部を除く）。外国人生活関連情報や、和歌山県内の日本語学習支援に関する情報、イベント等の情報をより分かりやすく掲載した。

・センター（協会）ホームページ閲覧者数 36,209 件 （昨年度ホームページ閲覧者数実績 22,462 件）
（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

◇ フェイスブック等 SNS での情報発信

公式フェイスブック及び公式インスタグラムにて、休館日の案内、各事業に関するイベント告知や報告等タイムリーな情報発信を随時行った。また、フェイスブックと連動したインスタグラムでの情報発信も本年度より開始した。より幅広い年齢層に情報提供をするため年齢層等利用者の分析を行い把握した。

・フェイスブックページの「いいね！」数 983 件
・インスタグラムフォロワー数 324 件

◇ 「情報提供ボード」による情報発信

国際交流センター廊下に設置したボードに、情報ボランティアによる投稿記事の掲示、和歌山県国際交流センターボランティア活動の紹介、県内の在住外国人に関する記事、在住外国人のための多言語での各種情報の掲示等来館者にわかりやすい様々な内容の情報を掲載した。

d. 在住・滞在外国人支援業務

I 「生活相談」業務

○外国人相談窓口の運営

外国人のための相談窓口を設置し、在住外国人が生活する上で抱える様々な相談に、外国人生活相談員等が英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語で対応した。

相談件数：884件 内容：以下のとおり

当事者国籍・地域別件数

フィリピン	386
ベトナム	125
日本	112
中華人民共和国	110
タイ	24
イギリス	14
インドネシア	11
アメリカ合衆国	10
ウクライナ	9
ミャンマー	7
大韓民国	6
ネパール	5
カナダ	5
台湾	5
ブラジル	4
ロシア	4
ジンバブエ	4
香港、シリア、ドイツ、ペルー、 アイルランド、スロバキア	各2
インド、メキシコ、スリランカ、 ポーランド、エジプト、パラグアイ、 オーストラリア、コスタリカ	各1
不明	23

内容別相談件数

通訳・翻訳	102
雇用・労働	83
日本語学習	80
入管手続き	65
教育	61
身分関係 結婚/離婚/DV等	38
留学	21
住宅	21
交通・運転免許	17
国籍	17
医療	13
観光	10
税金	8
出産・子育て	7
社会福祉	6
社会保険・年金	6
その他	329

対応内容別件数

情報提供	403
相談対応	380
専門窓口の紹介	34
通訳・翻訳	29
人材紹介	15
専門窓口への通訳	2
その他	21

○ 外国人のための「専門家による一日相談会」

在住外国人支援の一環として、通常的生活相談の枠を超えた専門的な相談に多言語で対応するため、田辺市において「専門家による一日相談会」を実施した。

- (1) 日 時 令和6年3月3日（日） 13:00～17:00
- (2) 場 所 田辺市民総合センター2階 交流ホール
- (3) 共 催 田辺市、田辺市教育委員会、田辺市国際交流センター
- (4) 相談内容 法律、在留資格・帰化、労働・社会保険・年金、教育、女性、国などの行政、
【新設】在留資格など（大阪出入国在留管理局）、市政・その他生活一般
- (5) 対応言語 英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語
- (6) 相談実施件数 12件 （相談者数8名）
- (7) 相談者国籍・地域別相談件数 中国6件、フィリピン3件、カナダ2件、ベトナム1
*在住外国人の方に健康管理や健康づくりに関心を持つきっかけとして血管年齢測定などのコーナー、またリユース品コーナーを新規に設置した。

○ 外国人のための巡回無料法律相談

在住外国人支援の一環として、法テラス和歌山と連携し、無料法律相談を企画し、実施した。相談内容は民事、家事、行政事件（*刑事事件は対象外）、日本に居住する収入・資産が一定基準以下の外国人を対象に、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語で対応した。

- (1) 日 時 令和5年5月18日(木)、7月20日(木)、9月21日(木)、11月16日(木)
令和6年1月18日(木)、3月21日(木) 13:00～16:00 各3枠
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室
- (3) 相談実施件数 5件
- (4) 共 催 法テラス和歌山（日本司法支援センター 和歌山地方事務所）

○ 相談員の資質向上研修等

- ・令和5年度自治体外国人施策の実務～第一線で対応する方のために～参加
 - (1) 日 時 令和5年6月5日（月）～令和5年6月7日（水）
 - (2) 場 所 全国市町村国際文化研修所
 - (3) 内 容 外国人に対する自治体の窓口業務や外国人施策等を担当する方を対象とした入門研修に相談員が参加
- ・近畿地域国際化協会連絡協議会分科会への参加
 - (1) 日 時 令和6年1月19日（金）13:30～16:00
 - (2) 場 所 ピアザ淡海3F 305会議室
 - (3) 内 容 分科会にて各府県の相談業務担当者らによる、事例や情報交換会に相談員が参加
- ・法テラス本部国際室オンラインセミナーへの参加
 - (1) 日 時 令和5年5月18日（木）17:30～19:00（後日録画にて視聴）
 - (2) 内 容 外国人支援者向けセミナー基本編・難民に対する法的支援についての研修に相談員が参加
- ・一般財団法人自治体国際化協会 プロトコールセミナーへの参加
 - (1) 日 時 令和5年5月30日（火）14:00～15:30
 - (2) 開催方法 オンライン Zoom
 - (3) 内 容 表敬訪問におけるプロトコールの基本知識や海外からの来客の正しい対応についての研修に相談員が参加

○ 外国人のための多言語情報提供

- ・和歌山県外国人サポートメールの配信（※詳細は、令和5年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.9~11 参照）
- ・協会情報誌の共同発行（※詳細は、令和5年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.5 参照）

Ⅱ コミュニケーション支援事業

在住外国人へ日本語学習を支援するボランティアのサポートを行い、共催等で日本語クラスを実施した。さらに研修会などを通して、ボランティアの支援力及び技術力を強化し、日本語教育の関係者や関係団体との連携を深めた。

○ 日本語クラス

県内に在住する外国の方を対象に、日本語や日本文化を学んでもらうために、国際交流センターボランティアと共催等で日本語クラスを実施した。

◇ 「もっと日本語クラス」

- (1) 日 時 令和5年4月10日（日）～令和6年3月31日（日）
10:30～12:00 全40回
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室、交流ラウンジ等
- (3) 内 容 中級レベルの日本語文法や会話表現
- (4) 講 師 和歌山にほんごの会 NAGOMI
- (5) 受講者数 延べ人数 約1,078名

◇ 「日本語 おはようクラス」

- (1) 日 時 令和5年4月14日（金）～令和6年3月22日（金）
10:30～12:00 全35回
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室、小会議室、交流ラウンジ等
- (3) 内 容 入門・初級レベルの表現から中級レベルの文法まで
- (4) 講 師 にほんご HYT の会
- (5) 受講者数 延べ人数 約542名

◇ 「わがっこ」（和歌山から外国につながる子どもたち）

- (1) 日 時 令和5年4月9日（土）～令和6年3月23日（土）
13:30～16:30 全20回
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室、小会議室等
- (3) 内 容 こどもの日本語教育および学習サポート
- (4) 講 師 八巻 由実子
- (5) 受講者数 延べ人数 約213名

◇ 「いっしょににほんご」

- (1) 日 時 令和5年4月～令和6年3月
月平均3回 36回程度実施
- (2) 実施方法 Zoom によるオンライン（個別・少人数）
- (3) 内 容 入門～中級
- (4) 講 師 中野 豊子
- (5) 受講者数 延べ人数 約68名

○ 日本語研修会等

◇ 令和5年度 やさしい日本語研修会

- (1) 日 時 令和5年11月17日（金）10:00～12:00
- (2) 場 所 和歌山ビッグ愛9F 会議室C
- (3) 講 師 公益財団法人箕面市国際交流協会 岩城あすか
- (4) 受講者数 44名（市町村職員30、外国人10名、日本語ボランティア4名）
- (5) 内 容 和歌山県内における日本語教室空白地域への日本語学習の機会を拡充すると同時に、県内の自治体及び外国人雇用企業関係者等に対する多文化共生意識や外国人支援に関する認識を醸成するため、やさしい日本語研修会を実施した。

◇ 日本語ボランティア研修会

和歌山県内に在留する外国人は過去最高を記録しており、外国人が日本語で自分らしい表現ができ、地域や職場の方々との良好な人間関係を作っていくため、ことばと文化を相互に理解し合うことを目的としたコミュニケーション重視の学習支援方法について学んでいただいた。（※御坊市・日高郡エリアにおける日本語教室空白地域解消事業におけるボランティア募集の研修会を兼ねる）

- (1) 日 時 (1回目) 令和5年10月20日（土）13:30～16:00
(2回目) 令和5年10月28日（土）13:30～15:30
- (2) 場 所 (1回目) 日高振興局内 別館2階 大会議室
(2回目) 国際交流センター サークル室
- (3) 講 師 国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員
國頭 あさひ、笠井 陽介
- (4) 内 容 「いづろどり（生活の日本語）を使った学習支援 実際に教え方と体験してみよう」について全半講義を聞き、後半はテキストを使用しながら生徒役・先生役になりロールプレイ体験をした。（1回目のみ）その後地域の外国人を交え交流会を実施した。
- (5) 参 加 者 第1回目57名（日本人参加者38名・外国人19名）



日本語ボランティア研修会（日高振興局）



日本語ボランティア研修会（国際交流センター）

◇ 令和5年度 和歌山県内における日本語教室空白地域解消事業（御坊市・日高郡エリア）

今年度、県内の日本語教室空白地域である御坊市・日高郡エリアを中心に、日本語学習の機会を拡充するための事業を下記のとおり実施した。

(1) 実施期間 令和5年度

(2) 実施方法 令和5年8月 日高振興局に協力依頼（日高振興局から御坊市企画課、美浜町総務課、日高町総務課、由良町総務政策課、印南町総務課、みなべ町総務課、日高川町総務課、御坊市商工会議所、美浜町商工会、日高町商工会、由良町商工会、印南町商工会、に協力依頼を行い個別訪問のための日程調整を行う）日高振興局より「紀州新報」「日高新報」「紀伊民報」に記事掲載依頼。教職員会OB、校長退職者会会長をご紹介いただいた。

令和5年8月28日 日高振興局、御坊市、御坊商工会議所、みなべ町、みなべ町商工会訪問

令和5年9月1日 印南町、印南町商工会、美浜町、美浜商工会、日高町、日高商工会訪問

令和5年9月5日 由良町、由良町商工会、日高川町、日高川町商工会、ハローワーク御坊、日高振興局訪問

令和5年9月 上記の団体等から情報収集した外国人雇用企業に☎連絡とチラシの送付
連絡した企業：太陽誘電㈱、サンヴァーテックス㈱ 博愛会、ヨシダエルシス㈱、エムケーシー工業㈱、㈱トノハタ、㈱駒井ハルテック、人と人協同組合、和歌山農産物生産販売事業協同組合、協同組合梅ノ郷等

令和5年10月 みなべ町広報誌 広報みなべ10月号、印南町広報誌 広報・いなみ10月号、日高町広報ひだか10月号、由良町広報誌 広報ゆら10月号 掲載

令和5年12月 センター日本語ボランティア1名、日本文化ボランティア1名（御坊市在住）、サンヴァーテックス㈱ 日本語学習支援に関するZoom打ち合わせ

令和6年3月 御坊市中央公民館にて日本語学習支援ミーティング実施（ボランティア4名、学習希望者3名、外国人雇用企業担当者1名参加）

(3) 実施結果 日高町中央公民館、由良町公民館、御坊市財部公民館等において当センター日本語ボランティア等による日本語学習支援活動を実施することとなった。

○ その他在住外国人支援

◇ 在住外国人と和歌山県国際交流ボランティアとの交流会「リユースマーケット」の開催（再掲P.8）

(1) 日時 令和5年10月29日（日）13：00～15：00

(2) 場所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ及びサークル室

(3) 内容 ボランティアへのアンケート調査から出た要望に沿って、コロナ禍ではできなかった地域在住の外国人の方々との交流と、在住外国人支援のためのボランティア活動機会としてリユースマーケットを実施した。ボランティアがリユースできる物品を持ち寄り、当日は店の店員役となり日本文化雑貨や生活雑貨などのマーケットを運営し、当センターにて日本語を学ぶ地域在住外国人等がお客役となり、やさしい日本語で交流しながらリユース物品を持ち帰った。

(4) 参加者数 56名（国際交流センターボランティア21名・在住外国人35名）

e. 在住外国人等に対する防災対策及び危機管理支援業務

災害予防対策

1. 防災啓発

◇ 防災ガイドの改定・増刷

多言語（やさしい日本語、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語）による防災啓発パンフレット「防災ガイド」を随時改定・増刷し、その周知に努めた。また、当センターホームページ上でも閲覧やダウンロードができるよう改定版を掲載した。

主な配布先

- ・ 県内各市町村 ・ 日本語学校 ・ 外国人技能実習生を受け入れている組合 ・ 当センター主催事業にて
- ★ 専門家による一日相談会にて ★ 外国人のための防災ワークショップ「Let's Study BOSAI」にて

◇ 防災啓発ビデオグラム

「やさしいにほんご」による音声と多言語サブタイトル（英語・中国語・韓国語・フィリピン語・タイ語・ベトナム語・インドネシア語から選択可）を挿入し作成した防災啓発ビデオグラムは常備し、問い合わせがあれば配布できるよう備えた。

◇ 外国人のための防災ワークショップ「Let's Study BOSAI」

地震や津波、台風などの災害発生に備え、在住外国人等が自らの防災に関する知識と意識を高め、災害時に適切な行動を取れるようにすることを目的に、地震等災害についての基礎知識を学び、グループで様々なミッションに挑戦する実践型イベントを実施した。

- (1) 日 時 令和5年5月28日（日）13:00～15:30
- (2) 場 所 国際交流センター交流ラウンジ・サークル室及び消費生活センター研修室、
- (3) 主 催 NHK和歌山放送局、和歌山県国際交流センター
- (4) 協 力 和歌山地方气象台、日本防災士会和歌山県支部、和歌山にほんごの会NAGOMI
- (5) 参加者数 外国人33名、運営関係者43名
- (6) 内 容
 - ①外国人になじみのない地震や津波、台風などの災害についての基本知識を学ぶためのオリエンテーション
 - ②災害に生かせる実践型ワークショップ
 - ～実践内容～
 - ・ BOSAI かるたで学ぼう！
 - ・ もし人が倒れていたらどうする？～AED・緊急搬送体験～
 - ・ 浸水はキケン！浸水 AR 体験
 - ③全体講座
 - ・ 地震・津波とは何か。知識と経験の少ない在住外国人が、防災の前提となる“災害”の基礎知識を学ぶ。
 - ・ 和歌山には毎年のように、台風や梅雨で大雨が降る。どんな災害が起きるのか？
 - ・ 暴風や大雨で危険な場合の警戒レベルについて。
 - ・ 日々の職場や学校等で災害に会った時、どんな行動をとればいいのか？



Let's Study BOSAI 緊急搬送体験



Let's Study BOSAI 和歌山地方気象台による講座

◇「令和5年度緊急消防援助隊近畿ブロック総合訓練」でのブース出展

和歌山県災害対策課が企画する近畿規模の訓練の展示PRコーナーにて外国人のための防災啓発取組みを紹介した。

- (1) 日 時 令和5年11月4日（土）9：00～12：00
- (2) 場 所 海南市会場（関西電力海南発電所跡地）展示PRコーナー
- (3) 内 容 和歌山県災害対策課からの依頼を受け、在住外国人への防災啓発ワークショップ Let's Study BOSAI の取組みを写真展示等によりPRした。

その他、職員によるやさしい日本語変換クイズの実施や防災ガイドを配布した。

- (4) ブース来場者数 300名

（参加機関：約 60 機関（消防や自衛隊等関係機関）参加人員：約 1,200 人）



外国人のための防災ワークショップ「Let's Study BOSAI」の紹介コーナー

◇「和歌山地方気象台活性化講演会」での講演

- (1) 日 時 令和6年3月8日（金）14：00～15：00
- (2) 場 所 和歌山地方気象台 会議室
- (3) 内 容 和歌山県国際交流センター 国際交流の取り組みと災害時の外国人への情報提供時の課題について当センター職員らが講演を行った。さらに、やさしい日本語についても詳しく紹介した。発災時外国人の危機管理支援につながる連携を今後も図っていく。
- (4) 参加者数 和歌山地方気象台職員15名

2. 多言語支援センターの設置・運営訓練及びその他研修への参加

◇ 和歌山県災害時避難所巡回訓練及び災害時多言語支援センター設置運営訓練

- (1) 日 時 令和5年11月30日（木）10:30～16:30
- (2) 場 所 みなべ町中央公民館、和歌山県国際交流センター
- (3) 内 容 講演：テーマ「災害多言語支援センターと避難所の連携」
「佐賀県災害多言語支援センターの活動事例（水害）とその訓練等について」
講師：勝谷 知美（熊本市国際交流振興事業団 事務局長）
矢富 明德（佐賀県国際交流協会 企画交流課長）
- (4) 参加者 市町村職員28名、近畿ブロック等17名（オンライン参加16名）
外国人8名、国際課6名、JICA 関西2名、WIXAS9名 合計70名



講演



多言語支援センターの設置・運営訓練

「災害時における外国人支援ネットワーク近畿ブロック研究会」

近畿圏内において発生する大規模災害に対し、相互に協力し、外国人に対する災害応急対策及び災害予防対策の支援を円滑に推し進める体制づくりを行うことを目的に、災害時多言語支援センターの設置、運営訓練を実施した。また、他協会が実施する共催研修会にも積極的に参加した。

◇ 「kokoka 防災訓練2023」

- (1) 日 時 令和5年6月24日（土）14:00～17:00
- (2) 場 所 京都市国際交流会館
- (3) 内 容 トルコで発生した地震から学ぶ日本の災害支援体制の課題や事前の備えについて、実際にトルコ地震の災害支援にあたった JICA 職員の話聞き、ワークショップで理解を深める。
- (4) 主 催 京都市国際交流協会
- (5) 共 催 近畿地域国際化協会連絡協議会

◇ 「災害時における外国人支援ネットワーク近畿ブロック研究会」（第1回～第4回）

- (1) 日 時 第1回 令和5年6月29日（木）、第2回 令和5年9月8日（金）、
第3回 令和5年12月8日（金）、第4回 令和6年2月22日（木）
14:00～16:00

- (2) 場 所 京都市国際交流会館
- (3) 内 容 年間事業計画・収支予算、総会、副会長研修、共催研修、災害時の緊急連絡体制・情報共有の方法、その他情報交換、事例紹介など
- (4) 参加団体 近畿地域国際化協会連絡協議会会員（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、京都市、大阪市、神戸市）、奈良県（準構成員）、堺市（準構成員）

◇ 近畿地域国際化協会連絡協議会 総会・懇親会

- (1) 日 時 令和5年8月4日（金）14：30～16：00、17：00～18：30
- (2) 場 所 京都市国際交流会館など
- (3) 内 容 令和4年度事業報告・収支決算報告及び監査報告、令和5年度事業計画（案）及び予算（案）、（一財）自治体国際化協会及び地域国際化協会連絡協議会の事業紹介、情報交換など
- (4) 主 催 近畿地域国際化協会連絡協議会

◇ 「災害時に通訳・翻訳ボランティアのための研修会」

- (1) 日 時 令和5年10月21日（土）13：30～16：30
- (2) 場 所 神戸国際コミュニティセンター 交流スペース
- (3) 内 容 講義：南海トラフと巨大地震の被害想定について
外国人当事者目線で考えてみよう～災害時多言語支援ボランティアとは
ワークショップ：災害時の翻訳作業体験
- (4) 主 催 （公財）神戸国際コミュニティセンター
- (5) 共 催 近畿地域国際化協会連絡協議会、（公財）兵庫県国際交流協会

◇ 令和5年度近畿地域国際化協会連絡協議会・主催研修

- (1) 日 時 令和5年12月15日（木）13：00～15：30
- (2) 場 所 堺市総合防災センター
- (3) 内 容 災害時・救急時等での外国人対応について、災害時の取組について、堺市総合防災センター見学
- (4) 主 催 近畿地域国際化協会連絡協議会、堺市

◇ 「ワークショップ～協力型防災ゲーム LIFE」

- (1) 日 時 令和6年2月8日（木）13：30～15：30
- (2) 場 所 マイドームおおさか 8階 第3会議室
- (3) 内 容 協力型防災ゲーム「LIFE」体験ワークショップ
- (4) 主 催 （公財）大阪府国際交流財団
- (5) 共 催 近畿地域国際化協会連絡協議会

◇「令和5年度災害時多言語支援センター設置・運営訓練」

- (1) 日 時 令和6年3月1日（金）13:00～16:00
- (2) 場 所 京都テルサ西館3階第2会議室
- (3) 内 容 災害多言語支援センターの一連の活動の内、巡回班についての訓練
- (4) 主 催 京都府、公益財団法人京都府国際センター、公益財団法人京都市国際交流協会
- (5) 共 催 近畿地域国際化協会連絡協議会、JICA 関西

◇「広域災害を見据えた会長協会の機能・役割について」

- (1) 日 時 令和6年3月8日（金）11:00～14:15
- (2) 場 所 大阪市立天王寺区民センター 第2・3会議室
- (3) 内 容 講義「今回の能登半島地震における活動に関して ～多言語支援センターの活動のあり方の観点から」、グループディスカッション、振り返り
- (4) 主 催 （公財）大阪国際交流センター
- (5) 共 催 近畿地域国際化協会連絡協議会

f. 海外移住者及び海外県人会に対する支援及び交流事業の実施業務

○ 海外移住者受入事業

海外に移住した県人にルーツを持つ青年を県内の一般家庭に受け入れ、ホームステイを通じてお互いの国の文化や風俗を理解し、移住先国と自らのルーツである和歌山、日本との相互理解を深めた。

◇ 南加和歌山県人会受入事業

【新型コロナウイルスの影響で所定の時期に来日する調整が不可能だったため中止】

- (1) 受入期間 令和5年7月初旬～中旬
- (2) 人 数 2名
- (3) 内 容 ホームステイ、県知事・県議会表敬訪問、理事長主催昼食会、
グローバルセミナーのゲストスピーカー、茶道体験、日米協会主催昼食会
- (4) 協力団体 和歌山日米協会、和歌山大学

代替えとして、南加和歌山県人会とのオンラインプログラム「Online Exchange Program with Nanka Wakayama Kenjinkai」～Welcoming The Museum of Modern Art, Wakayama～を実施した。

（詳細はP.10参照）

◇ メキシコ和歌山県人会受入事業

- (1) 受入期間 令和5年7月初旬～中旬
- (2) 対 象 者 秀明 ルイス エンリケ レオン清水（16歳）
エミリオ 正樹 ロメロ清水（22歳）
- (3) 内 容 ホームステイ、県知事・県議会表敬訪問、理事長主催昼食会、和菓子作り体験、
グローバルセミナーのゲストスピーカー、日米協会主催昼食会、那智勝浦町訪問、
- (4) 協力団体 和歌山日米協会、和歌山大学、和歌山県星林高等学校

◇ 中南米和歌山県人会受入事業

- (1) 受入期間 令和6年1月19日（金）～2月7日（水）
- (2) 対象者 在ブラジル和歌山県人会 ファブリシオ ヒトシ マツナガ（22歳）
在パラグアイ和歌山県人会 大石 奈美（20歳）
- (3) 内容 ホームステイ、県知事・県議会表敬訪問、理事長主催昼食会、高校生や大学生との交流、親戚との交流、グローバルセミナー、日本文化体験など
- (4) 協力団体 わかやま南北アメリカ協会、中南米交流協会、和歌山大学、星林高等学校

◇ ブラジル和歌山県人会と交流会の開催

- 開催日時 隔週土曜日9：00～10：00（ブラジル時間 金曜日21：00～22：00）
- 開催方法 Zoomによるオンライン開催
- 参加者 県人会メンバー10名前後、協会職員4名、日本語ボランティアなど数名
- 内容 ブラジル和歌山県人会メンバーの日本語スキルアップ及び県人会等の活動紹介や情報交換など

自主事業実施状況

g. その他施設を利用した指定管理者自主業務

○デジタル情報配信事業

◇和歌山県国際交流センターニュースの発行

- 再掲（※詳細は、令和5年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書P. 参照）
- 和歌山県国際交流センターを拠点に当協会の事業及び地域の国際化の動きなどの情報を掲載している広報誌を年3回発行した。（センター共同発行）
- 発行月：9月、12月、3月
- 発行部数：各1,500部

◇和歌山県外国人サポートメール配信事業

- 再掲（※詳細は、令和5年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書P. ～ 参照）
- 和歌山県より和歌山県外国人サポートメール配信業務の委託を受け、和歌山県に在留する外国人に対して、災害、健康、安全等に関する情報を多言語（やさしい日本語、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語）で配信した。

※主な配信の時期、内容、周知先については上記(自主事業)事業報告書P. ～ 参照

○わかやまJICAボランティア応援団

- ・国際理解促進事業として、役員及び会員へクロスロードを配布した。
- ・JICAボランティア推進事業として、協力隊ナビプラスを実施した。
- ・隊員・留守家族への支援事業等として、出発する隊員への「わかやま隊員応援セット」の集荷及び贈呈した。また、下記の日程で県内市町村を表敬訪問へ随同行した。

令和5年7月3日（月）湯浅町、令和5年7月5日（水）和歌山市、令和5年7月12日（水）和歌山県庁、令和5年7月13日（木）田辺市
令和5年10月2日（月）和歌山市、令和5年10月3日（火）和歌山県庁、令和6年1月16日（火）和歌山県庁

○ オンライン世界旅行 再掲 (P.9)

◇海外オンライン交流プログラム・人権セミナー「世界の紛争と国際平和維持活動とは？」に再掲。

講師の塩見善之氏にはスイス・ジュネーブから Zoom で繋ぎ講義いただいた。国際連合の役割や活動について、また赴任地での経験を通して世界の現状を伝えていただき、参加者との質疑応答などを通して世界の問題について考える機会となった。

○ ODX推進の積極的な取組

再掲（※令和5年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書P.4)

センター職員向けに、オンライン、クラウドサービス、SNS 戦略、情報セキュリティの強化などを中心に、ICT推進を目的とした研修を実施した。（内容 ①Windows Update、メールやデータのバックアップ、②情報セキュリティに関すること（メール、個人情報等の取り扱い））。

講師は志場 久起 氏（認定特定非営利活動法人わかやま NPO センター 理事長）

ウ 利用者アンケートの状況 利用者アンケートの内容及び対応状況等

和歌山県国際交流センターの利用者へのアンケート結果は以下のとおり。（カッコ内で回答割合を示す）。アンケートの実施方法については、アンケート用紙の配布及び Google form を活用したインターネット上での回答の方法を用いた。総回収枚数は140名、うち在住外国人は29名。アンケート結果については職員全員で共有し、特に改善が必要なご意見については具体的な解決策について話し合った。

○ アンケート内容

「和歌山県国際交流センター利用アンケート調査」

① あなたの年齢を教えてください。（回答数 140）

- ・ 10代 (1.4%)
- ・ 20代 (12.9%)
- ・ 30代 (7.9%)
- ・ 40代 (16.4%)
- ・ 50代 (17.9%)
- ・ 60代 (22.9%)
- ・ 70代 (16.4%)
- ・ 80代以上 (4.2%)

② あなたはどのように、センターを利用していますか？（回答数 140）

- ・ 日本語クラスに参加するため (22.1%)
- ・ サークル室を利用するため（団体活動でサークル室を利用するため） (32.1%)
- ・ ボランティア活動のため (35.7%)

- ・ イベント・講座・研修への参加のため（32.9%）
- ・ 本を借りるため（5%）
- ・ 情報を得るため（11.4%）
- ・ 相談を受けるため（4.3%）
- ・ 調べ学習のため（5.7%）
- ・ その他（3.5%）

③ センターの職員、スタッフの対応について。（回答数 140）

- ・ とても良い（68.6%）
- ・ 良い（26.4%）
- ・ 普通（5.0%）
- ・ 悪い（0%）
- ・ とても悪い（0%）

④ センターの清掃について。（回答数 140）

- ・ とても良い（60.0%）
- ・ 良い（34.3%）
- ・ 普通（5.7%）
- ・ 悪い（0%）
- ・ とても悪い（0%）

⑤ センターの新型コロナウイルス対策について。（回答数 140）

- ・ 十分（86.4%）
- ・ 改善の余地あり（1.5%）
- ・ わからない（12.1%）

⑥ センターの利用についての満足度を教えてください。（回答数 140）

- ・ とても満足（49.3%）
- ・ 満足（45.0%）
- ・ 普通（5.0%）
- ・ 不満（0.7%）
- ・ とても不満（0%）

⑦ 不満、とても不満と答えた方に聞きます。どういった点が不満ですか？具体的に聞かせてください。

- ・ 仕事の進め方が役所的である。

⑧ 外国人の方にお聞きします。当センターを利用するとき、不便なことや困っていることはありませんか？

- ・ 特になし（複数回答あり）
- ・ 色々な国との交流に興味があり、自分の子供にも国際交流感がある子供になってほしいと思います。子供向けの国際交流イベントを企画してくださいますとありがたいです。
- ・ インターネットがほしいです。

⑨ 和歌山県国際交流センターへのご意見・ご要望、日ごろのご感想があれば自由にお書きください。

（全回答の中かた一部抜粋して記載）

①施設利用・接遇・対応に関して

- ・職員の方々が親切で、いろいろと助けてもらっています。
- ・スタッフの皆さんが会場準備などで手伝ってくれています。感謝しています。
- ・コロナ禍で仕事が変わり利用頻度が減ってしまいました。又時間が出来たら利用したいと思っております。
- ・いつも気持ちよく利用させてもらっています。（複数回答あり）
- ・英会話教室で利用させてもらっています。いつも親切、ていねいに対応してくださってありがとうございます。
- ・駐車料金が無料ならいいと思います。
- ・和歌山県に在住している外国人の方々が安心して住めるようにお願いします。
- ・無料で施設を利用できるのがとてもありがたいです。（複数回答あり）

②事業に関して

- ・たまには紀南地区でも行事・レクチャー等を開催してほしい。
- ・英語よりもアジアなど英語ができない 県内に多い人々に焦点を当てたほうが良いと思います。
- ・行動制限が緩和され対面でのイベント開催が可能になったいま、例えば4半期に一度程度 ボランティアや日本語クラスに参加しているメンバー全てを集めて懇親会（昼間や休日）などを開催して外国の方と更に親交を深める機会があれば良いと思います
- ・コロナも落ち着いてきつつあるので、また、みんなで楽しいイベントができたらうれしいです。
- ・イベントやレッスン以外に、センターに行けば日本人と外国人が自然に交流できるような場になってほしい。
- ・いつも様々な情報をご提供いただき大変感謝いたしております。
- ・情報発信、連絡、及び返信等、ていねい、的確で有り難く思っています。
- ・いつも色々な企画を考えて下さり有難うございます。
- ・研修を多くしてほしいです。
- ・研修や講座は、オンラインと対面のハイブリッドでの開催を希望します。
- ・展示など楽しみにしております。リユースマーケット良い企画だと思います。
- ・通訳ボランティア研修等をしていただければ、嬉しいです。
- ・小学生が参加できるイベントをいろいろ企画してください。

③日本語クラス学習者からの感想

- ・センターはいつも外国人に親切にしてくれる。
- ・日本語教室の先生が良い。（ベトナム人学習者の方）
- ・日本語をよく教えてくれ、センターには良い方々がいます。
- ・生活のため、みなさん忙しいので、交流する機会が少ないのでストレスを溜めている。国際交流センターに来て、先生や他の国のみなさんと交流して勉強になりとてもリラックスになっています。
- ・この場所があってよかったです。

エ 再委託の実績

①委託実績

- | | |
|--------------|-----------------------------------|
| (1) 契約件名 | 令和5年度和歌山県国際交流センター ホームページ保守管理 |
| (2) 再委託の内容 | 保守管理（令和5年4月1日～令和6年3月31日） |
| (3) 再委託を行う理由 | 保守管理に関しては専門的な知識と技術が必要となるため専門業者に委託 |
| (4) 再委託先 | 株式会社和歌山新報社 代表取締役 津村周（和歌山市福町49番） |
| (5) 再委託金額 | 保守管理費 71,280円 |

オ KPI（重要業績評価指標）の達成状況

○指定管理者として掲げる成果目標（KPI）に対する結果は以下のとおり。

(1)利用者数 前年度比でプラス1,000人（オンライン利用者数を含む）

和歌山県国際交流センターへの利用者数（オンライン含む）は、令和5年度は18,625名となり昨年度の15,599人と比較して3,026人増加し、単年度目標達成率は302%となった。令和5年度和歌山県国際交流センター利用者数は以下のとおりである。令和5年5月の新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、人数制限を設けて実施していた対面形式での交流関係のイベントにおいても制限を緩和し50名規模の交流イベント実施を再開したこと。また、国際交流団体による施設利用もコロナ前に同等する利用頻度に戻ったことが利用者数の増加につながった。

※下記表ではサークル室利用者及びオンライン参加者数は来館者総数に含む

月	利用者総数	※うちサークル室利用者数	※うちオンライン参加者数
令和5年度	18,625	4,893	301
令和4年度	15,599	3,397	696
令和3年度	12,920	2,389	253
令和2年度	16,651	3,338	
令和元年度	21,722	4,245	
平成30年度	34,269	4,792	
平成29年度	25,419	4,312	
平成28年度	26,295	3,981	
平成27年度	25,713	3,811	
平成26年度	22,291	3,238	

(2) センター利用者の満足度 普通以上「とても満足」・「満足」・「普通」が80%越え

和歌山県国際交流センターで年2回アンケート月間を設け、利用者の協力により集めた利用満足度アンケートで、当センターの利用満足度を問うたところ、普通以上「とても満足」・「満足」・「普通」が98.6%となり、目標を上回ることができた。

（3）各事業講座等の参加者満足度 普通以上「とても満足」・「満足」・「普通」が80%越え

国際交流センター主催事業の研修会、講座、イベント等にて参加者の協力により集めた参加者アンケートにて、満足度を問うたところ、普通以上「とても満足」・「満足」・「普通」が98%となり、目標を上回ることができた。

カ サービス向上や管理運営経費削減の取組状況

○経費の縮減

令和5年度も事業費の削減に努めた。また、仕事の効率化と職員の健康管理の面からも、職員1人ひとりの時間単位の生産性の向上を図った。電気代の高騰により一部では費用が増加したが、通信運搬費、消耗品費などの削減可能な事務経費は、日々の管理により変化に気づき、職員への情報周知や経費の可視化等の工夫を行い、職員が一丸となり経費の縮減に取り組んだ。

○外部資金の活用

自治体国際化協会（CLAIR）等からの助成金を活用し、外部からの資金調達に努めた。

キ 各種研修の実施状況

再掲（令和5年度和歌山県国際交流協会事業報告書 P.4）

○ 相談研修（精神保健研修）

- （1）日 時 令和5年6月29日（木） 10:30～11:30
- （2）講 師 和歌山県精神保健福祉センター 久保 早有里 臨床心理士
- （3）内 容 センター窓口対応並びに相談電話対応の基本について
- （4）参加対象者 職員（10名）

○ ハラスメント研修

- （1）日 時 令和5年12月14日（木） 10:30～12:00
- （2）講 師 特定社会保険労務士 吉岡 恭子（吉岡社会保険労務士事務所）
- （3）内 容 ①アンガーマネジメント入門講座 ②心理的安全性について
- （4）参加対象者 職員及びJICA 和歌山デスク職員（11名）

○ 人権研修

- （1）日 時 令和6年2月15日（木） 10:00～12:00
- （2）講 師 和歌山県 企画部企画政策局国際課 副課長 山田 香世
- （3）内 容 ①同和問題 ②子どもの人権
- （4）参加対象者 職員及びJICA 和歌山デスク職員（10名）

○ DX及びセキュリティ研修

- （1）日 時 令和6年1月11日（木） 10:30～12:00
- （2）講 師 志場 久起
認定特定非営利活動法人わかやま NPO センター 理事長

和歌山県 NPO サポートセンター センター長

- (3) 内 容 ①Windows Update、メールやデータのバックアップ
②情報セキュリティに関すること（メール、個人情報等の取り扱い）

- (4) 参加対象者 職員（9名）

○ 経理研修

- (1) 日 時 令和6年1月24日（水）13：30～16：30

- (2) 講 師 公認会計士 西村 拓哉

- (3) 内 容 財団・社団の最低限守るべき経理環境－最新不祥事～学ぶ予防と対応－

- (4) 参加対象者 総務課職員1名

[文中：敬称略]